

EUSI メールマガジン Vol. 050

「環大西洋貿易投資パートナーシップ ゲームチェンジャーを目指す EU」(明田ゆかり)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 035】

「環大西洋貿易投資パートナーシップ: ゲームチェンジャーを目指す EU」

明田ゆかり (慶應義塾大学理工学部講師、EUSI 主任研究員)

「2013年は貿易交渉の歴史の転換点として記憶されることになるかもしれない。」
ブリュッセル研究所フェローのカルマーカーの言葉は、世界の二大経済パワーであるEUと米国が2013年3月に「環大西洋貿易投資パートナーシップ(TTIP)」の交渉を開始したことの驚き、期待、そして懸念を象徴している。

2012年9月10日の本コラムで筆者は、グローバル貿易ガバナンスにおけるEUの影響力が急激に低下し戦略的転換を迫られたが、EUモデルの有効性は依然存在することを指摘した。それから2年弱が経過し、EUが行ったTTIPという選択は、EUの主導権復活に向けた意思表示であるのか。実際EUはTTIPを21世紀の貿易政策のベンチマークとすると公言してはばからない。これに対して時代遅れの米欧二極復活の試みである、帝国主義的である、そもそもTTIPの実現は不可能であるといった批判が出されている。これら批判の検討は重要であるが別の機会に譲り、今回はグローバルな「ベンチマーク」という観点から、経済的、戦略的、手続き的側面におけるTTIPの意義と、EUの意図を明らかにしたい。

経済的側面

TTIP開始の最大の目的が経済的効果にあったことは間違いない。金融危機後のEUにとってその存続は成長と雇用創出にかかっているといっても過言ではない。EUは成長戦略の柱として新世代FTAの推進を打ち出した。だがその第一弾として鳴り物入りで締結されたEU韓国FTAの経済効果はEUのGDPのわずか0.08%(2010年)と期待を大きく下回り、成長と雇用には米国そして日本という巨大経済とのFTAが必要であった。
欧州委員会の予測では、TTIPは2027年まで年間0.5%のGDP拡大をEUにもたらすという。

一方、世界GDPシェアの約50%、世界貿易の約30%を占める米EUが自由貿易圏を形成すれば、「要塞大西洋」の出現により世界の経済格差が拡大し、またWTOの正統性と有効性が揺らぐという懸念が存在する。これについて欧州委員会は、
1.TTIPによって米EU経済が大きく成長すれば世界的な経済波及効果が発生する、
2.貿易自由化と規制緩和が成長と雇用を生み出す最善の政策であるという揺るぎない証拠を世界に示す、という点で、世界経済および多国間貿易レジームにプラスの効果を与えることを強調している。

戦略的側面

経済的効果と並ぶ TTIP の目的は戦略的効果である。・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol35.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 公開シンポジウム

「ウクライナ危機と欧州の将来 (1)－欧州の視点から」

日時: 2014年7月11日(金) 15:00-17:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館 G-SEC8 階ホール

申込: 無料・参加自由

講演者(パネリスト):

六鹿茂夫 (静岡県立大学大学院国際関係学研究科教授)

東野篤子 (筑波大学大学院人文社会系国際公共政策専攻准教授)

鶴岡路人 (防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室主任研究官)

司会: 細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授)

(※現在台風が接近しておりますが、現時点では通常どおり開催予定です)

http://eusi.jp/content_jp/research/seminar-research/eu-ukraine20140711.html

2. EUSI 津田公開講座「EU における移民政策・多文化主義」

日時: 2014年7月12日(土) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学小平キャンパス 7号館 7101 教室

講演:

「ドイツにおける移民統合と多文化主義」

昔農英明 (津田塾大学・一橋大学非常勤講師)

「オランダにおける多文化主義とトルコ系イスラーム組織・クルド組織の活動」

寺本めぐ美 (津田塾大学大学院)

「スウェーデンの移民政策と多文化社会の現状と問題点」

清水謙 (東京大学大学院)

討論: 浪岡新太郎 (明治学院大学准教授)

司会・開会挨拶: 網谷龍介 (津田塾大学教授)

参加: 無料・申込み要

申込・問い合わせ先: EUSI 津田分室 eusi@tsuda.ac.jp

http://eusi.jp/content_jp/research/seminar-research/tsuda_publiclecture20140712.html

3. EUSI 公開シンポジウム

「ウクライナ危機と欧州の将来 (2)－ロシア・ウクライナの視点から」

日時: 2014年7月25日(金) 15:00-18:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館 G-SEC8 階ホール

申込: 無料・参加自由

講演者(パネリスト):

松里公孝 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)
岩間陽子 (政策研究大学院大学教授)
藤森信吉 (北海学園大学非常勤講師)
中村亮 (外務省欧州局中東欧課長)

司会: 田中俊郎 (慶應義塾大学名誉教授)

http://eusi.jp/content_jp/research/seminar-research/eu-ukraine20140725.html

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

田中俊郎 (EUSI 理事、慶應義塾大学名誉教授)
「EU 内の自由移動と査証について教えてください」
駐日 EU 代表部『EU MAG』(2014年6月17日)
<http://eumag.jp/question/f0614/>

中西優美子 (EUSI 執行委員、一橋大学大学院法学研究科教授)
「個人データ保護権にかかわる比例制原則審査」

【EU 法における先決裁定手続に関する研究(6)】
『自治研究』第90巻第7号(2014年7月)82-93頁

【EU に関するニュース】

- 2014年6月15日 EU 中央アフリカ部隊(EUFOR-RCA)、本格的任務遂行開始。同国治安維持のため4-6カ月任務予定
- 2014年6月16日 ロシア、対ウクライナ向けガス供給停止。エッティンガー欧州委員、両国仲介継続を表明
- 2014年6月16日 EU・韓国、第5世代(5G)移動通信技術の研究と国際規格化への協力に関する協定調印
- 2014年6月16日 趙兌烈・韓国外務第二次官、EU による韓国の漁業違法操業国予備指定に対し違法取締強化約束
- 2014年6月16日 欧州対外行動庁(EEAS)、ザイド・フセイン ヨルダン王子の国連人権高等弁務官就任に歓迎声明
- 2014年6月17日 欧州自動車工業会(ACEA)、5月自動車販売台数は113万台で前年同月比4.3%増、9カ月連続増加
- 2014年6月17日 シンガポール政府国際企業庁、5月貿易統計発表。対EU貿易は前月比22.6%減と製薬・ICで低迷
- 2014年6月18日 財務省、5月貿易統計(速報)で、対EU輸出6060億円・前月比14.5%増、輸入6528億円同5.7%増
- 2014年6月19日 欧州委員会、ISISなど混迷するイラク情勢を受け、500万ユーロもの対イラク人道援助を追加
- 2014年6月19日 メルケル独首相、欧州理事会常任議長候補の一人トーンニングシュミット・デンマーク首相会談
- 2014年6月20日 EU 経済財務理事会、2015年1月1日よりリトアニアのユーロ正式導入支持を採択
- 2014年6月20日 欧州委員会、「EU 域内安全保障戦略(ISS) 2010-2014」報告書発表。安保課題の進捗状況評価
- 2014年6月20日 欧州対外行動庁(EEAS)、ポロシェンコ・ウクライナ大統領の和平計画15項目発表へ歓迎声明
- 2014年6月20日 ゲオルギエヴァ欧州委員ら、世界難民の日に際しEUの人道援助・共通欧州庇護制度などの声明
- 2014年6月20日 スイス、EU・欧州自由貿易連合(EFTA)加盟国からの労働者受入枠を、他国より優遇する声明
- 2014年6月22-27日 欧州外交評議会(ECFR)代表団、EUSI・東京財団・日本国際問題研究所など有識者らと懇談
- 2014年6月23日 欧州対外行動庁(EEAS)、シリアからの残存化学兵器の搬出に関するOPCWの発表に対し歓迎声明

- 2014年6月23日 EU 外務理事会、ウクライナ提示の和平計画支持、イラク対 ISIS 作戦でマリク政権支持など採択
- 2014年6月23日 EU 外務理事会、2013年世界の人権・民主主義年次報告書を採択。信仰や LBGTI の人権指針など
- 2014年6月23日 駐日 EU 代表部「Going Global」セミナー開催。欧州との学術研究交流プログラムについて紹介
- 2014年6月23-25日 日・EU SPA 交渉第5回会合、東京で開催
- 2014年6月24日 EU 理事会、EU 海洋安全戦略承認。組織犯罪・航行自由への脅威など海洋戦略に関する利益規定
- 2014年6月24日 欧州委員会、EU 防衛産業強化計画提示。行程表や研究に関する準備行動などを盛り込む
- 2014年6月24日 EU 一般理事会、アルバニアを EU 加盟候補国とすることで合意
- 2014年6月24-28日 EU 後援の国際学術会議「サラエボの長い銃声 1914年の事件・物語・記憶」サラエボで開催
- 2014年6月25日 EU 通商政策委員会、鉄道調達等で日本側の問題点を指摘するも、日・EU EPA 交渉継続を決定
- 2014年6月26日 欧州理事会、第一次世界大戦開戦 100 周年記念式典をベルギー西部の激戦地イーペルで開催
- 2014年6月26日 欧州対外行動庁(EEAS)、張志軍・中国台湾事務弁公室の訪台を受け中台接近に関し好意的声明
- 2014年6月26日 欧州対外行動庁(EEAS)、日本の川崎政則死刑囚への死刑執行に対して、深い遺憾の声明
- 2014年6月26日 EU、「拷問の犠牲者を支援する国際デー」を受け、EU 及び加盟国拷問禁止の取組に関する声明
- 2014年6月26-27日 欧州理事会、ユーログループ前議長ユンカー氏を次期欧州委員長指名。英とハンガリー反対
- 2014年6月26-27日 欧州理事会、ウクライナ停戦破棄時の更なる追加制裁や、「変革の時代の EU 戦略計画」採択
- 2014年6月27日 EU、ウクライナ・グルジア・モルドバの3カ国と連合協定調印。ロシアは反発姿勢
- 2014年6月27日 欧州委員会、日豪印や香港のデリバティブ規制は EU 規制と同等とし、EU 域内で清算業務可能に
- 2014年6月27日 財務省、5月貿易統計(輸出確報・輸入速報)発表。対 EU 輸出 6000 億円、輸入 6532 億円に修正
- 2014年6月28日 サラエボ事件 100 周年。サラエボで平和に関する展示や屋外彫刻展など開催
- 2014年6月29日 独仏首脳電話会談。露とウクライナに和平協議開始要求、30日の停戦期限までに露の行動迫る
- 2014年6月29日 韓国、FTA 発効3年目の対 EU 輸出は 473 億ドルで前年同期比 7.8 増、輸入は 547 億ドルで 12.5%増
- 2014年6月30日 EU 報道官、前日の北朝鮮の短距離弾道ミサイル発射実験に対して憂慮の声明
- 2014年6月30日 駐日 EU 代表部の研究・イノベーションの Mascot ロボットの愛称「ユパン(EUPAN)」に決定

【編集後記】

今回の記念すべき EUSI メールマガジン第 50 号の巻頭エッセイは、EUSI 主任研究員である明田ゆかり慶應義塾大学理工学部講師に執筆をお願いしました。

EU・米国による環大西洋貿易パートナーシップ(TTIP)交渉を重要な視点から切り取った極めて興味深い論稿となっています。

EU は世界に冠たる通商国家群であり、日本とも緊密な貿易・投資関係を築いてきましたが、かつては常に日本側の大幅な貿易黒字が存在し、日・EU 間の協議の場では貿易不均衡問題が主要な議題となってきました。いまや、FTA や EPA の問題は世界中で議論されるテーマとなっています。TTIP 交渉の行方は、日・EU 関係や日・米関係を含む国際社会全体へ多大な影響を及ぼすことになりそうです。

先日、一橋大学の EUSI 事務局に Central European University(CEU)の関係者の方が訪問されました。CEU は 1991 年に設立されたハンガリーのブダペストに本部を置く私立大学で、中東欧地域における民主主義体制の確立、人権の確保、経済システムの構築などを目指して研究、教育活動を行うとともに、比較地域研究にも力を入れ、世界各地の大学や研究機関とのネットワーク作りを進めています。アジアへの関心も高く、日本の EU 研究機関との関係強化もその一環であるとのことでした。

いずれにせよ、世界中からアジアに注がれる視線は熱く、世界は狭いことを改めて痛感させられます。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

今年は第一次世界大戦開戦 100 周年に当たります。先月 6 月 28 日はその直接の契機となったサラエゴ事件から 100 周年を迎え、先の欧州理事会でも会期中に第一次世界大戦の激戦地であったベルギーのイーペルにて、EU 加盟国 28 カ国の首脳らが記念式典を開催しました。

現在の欧州統合の直接の契機は、第二次大戦によるヨーロッパの荒廃と再興に求められることが多く、そうした言説の場合、第一次世界大戦は言わば前史として位置付けられます。しかしながら第一次世界大戦もまた、現在の欧州統合に連なる多くの政治的・社会的・思想的系譜を持っていることが明らかとされています。

かつてクーデンホーフ＝カレルギー伯爵は『汎ヨーロッパ』(1923 年)という本を著しました。その中で彼は、第一次大戦が終結した今、戦争により荒廃したヨーロッパは、もはやアメリカや日本などの台頭の前に以前ほど支配的な地位にはなく、さらに今後も新たな戦争の危機に直面していることを説き、その上でヨーロッパは無秩序の代わりに組織を、自助の代わりに連帯的保証を、また競争の代わりに協力が必要であることを訴えました。これが後の汎ヨーロッパ運動を生み、同時代のブリアン仏首相のヨーロッパ連邦構想や、ルシェールやマイリシュによるヨーロッパ経済の組織化へと連なってゆきます。

第一次世界大戦から 100 年経った現在、改めて当時の世界が直面した歴史や問題に立ち返りつつ、これからの世界にいかなる教訓を与え、どのような社会の創造に結びつけてゆくべきか、いま一度思い返すきっかけを与えているのかもしれない。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

2012 年 4 月 25 日に創刊第 1 号を配信した EUSI メールマガジンも、今号で第 50 号を迎えました。ありがとうございました。今後も欧州や EU 研究に関する更なる情報源として役立つことができるよう精進して参りたいと存じます。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
